

高鍋の文化財第六集

高鍋の社寺と教会



高鍋町教育委員会

目次

はじめに..... 1

一、神社

(一) 北高鍋

(1) 熊野神社..... 2

(2) 多賀神社

(3) 稻荷神社

(4) 菅原神社

(5) 毛比呂計神社..... 5

(6) 稻荷神社..... 6

(7) 稻荷神社

(8) 潮神社

(9) 稻荷神社..... 7

(10) 立花神社

(二) 南高鍋

(11) 熊野神社..... 9

(12) 熊野神社

(13) 高鍋護国神社..... 10

(14) 霧島神社..... 12

(15) 権現

(16) 金比羅神社

(19)

(17) 宮田神社..... 12

(18) 川上神社

(三) 高鍋町

(19) 八坂神社

(20) 火産靈神社..... 13

(四) 蚊口浦

(21) 鶴戸神社..... 15

(22) 菅原神社..... 16

(五) 上ノ江

(23) 舞鶴神社..... 17

(24) 愛宕神社..... 20

(25) 金刀比羅神社

(26) 川田神社..... 21

(27) 菅原神社..... 22

(28) 巖島神社

(29) 菅原神社

(30) 菅原神社

(31) 若宮大明神..... 23

(32) 菅原神社

(33) 日枝神社

(34) 中島権現

(六) 持田

(8)	海桃庵	34
(7)	不動院円智寺	33
(三) 真言宗		
(6)	光明山覚照寺	32
(5)	正報山光福寺	32
(4)	栗田山称専寺	30
(二) 浄土真宗		
(3)	観音堂	
(2)	東松山称名院円浄寺	
(1)	水徳山満月院円福寺	28
(一) 浄土宗		
二、寺院		
(43)	竹鳩神社	
(42)	美年神社	
(41)	家床天神	
(40)	水天宮	26
(39)	愛宕神社	
(38)	菅原神社	
(37)	大明神	
(36)	大宮社	25
(35)	大年神社	23

(16)	井上山西迎院	
(15)	秋月山安養寺	
(14)	元祇園庵	
(浄土宗)		
(13)	延命寺	39
(12)	宝真山昌福寺	
(11)	龍叟庵	
(10)	然叟庵	
(9)	医王山江上庵	38
(8)	潮音山龍江寺	37
(7)	養国山皇徳太平寺	
(曹洞宗)		
(6)	大鷄寺	
(5)	仙蔵寺	
(4)	瑞光山宝福寺	36
(3)	慈雲山大竜寺	
(2)	瑞松山竜雲寺	
(1)	明星寺	35
(臨濟宗)		
(9)	詔和山妙本寺	34
(五) 廃寺		
(四) 日蓮宗		

(17)	薬王山医福寺……………	39
	(浄土真宗)	
(18)	真宗道場……………	40
	(真言宗)	
(19)	医王山祇園寺樹照院	
(20)	雲松山観音寺	
(21)	大聖山	
(22)	瑠璃山東光寺……………	41
(23)	東雲山大仙寺	
(24)	善福寺	
(25)	長園寺	
(26)	長寿院	
(27)	日陽山長宝寺……………	42
(28)	梅香山天神寺善門院	
(29)	瑞峯山愛宕寺応輪院	
(30)	瑠璃山慈恩院	
	(修験山伏宗)	
(31)	白山代	
(32)	愛染院	
(33)	福寿院	
(34)	朝倉山龍岸寺	
(35)	宮田寺……………	43

(36)	松尾山地福寺円実院……………	43
(37)	川田寺	
(38)	鈴峯山飯長寺	
	(宗旨不明)	
(39)	光音寺	
(40)	田尾寺……………	44
	(付)古墳供養高鍋大師堂	
	三、教会	
(1)	天理教高鍋分教会……………	45
(2)	天理教本河分教会	
(3)	金光教高鍋教会……………	47
(4)	立正佼成会高鍋教会	
(5)	高鍋カトリック教会……………	48
(6)	日本基督教高鍋教会……………	49
(7)	日本バプテスト児湯キリスト教会高鍋会堂……………	50
(8)	高鍋キリスト教会……………	51
	四、高鍋の寺社関係資料について……………	52
	あとがき……………	54

はじめに

一、「高鍋の社寺と教会」は高鍋町の文化財シリーズ第六集で、その編さんを文化財審議会に委嘱されたものである。

二、寺社資料は第一に、巻末に解説した資料がある。しかし、古い寺社帳に記載せられている神社寺院の中には廃絶されたものや、合祀されたものもあり、現状とは著しく異っている。この改変は特に、明治初年の排仏毀釈運動による寺院の荒廃と、戦後の国家と神道の分離指令のための神社の荒廃によるものが多く、記録もまた多く失われている。第二の資料には、各神社寺院に伝わる記録がある。しかし、これもいろいろな災害のために、多くは失われている。口碑として伝えられているものも寺社帳の内容と相違するところが多い。

三、従って今回の調査は充分とは言えない。宗教学人として登記せられているもの以外も出来るだけ調査集録したが、漏れたものもあるであろう。調査を継続し逐次明らかにしなければならぬ。

四、集録は、神社は大字別とし、所在の明らかでない神社をその後に掲げた。寺院は宗派別とし、廃寺はその

後に宗派別に記載した。教会は種類別に集録した。

五、創建由緒等明らかでないものは不明とし、根拠のない推定は避けた。口碑による場合はその旨を記した。

六、調査は、概ね、南高鍋（前田）北高鍋（石川）高鍋町（武藤）上江（小椋）持田（黒水）、教会（武藤）と分担した。一部変更したところもある。

七、文化財審議委員、神職の永友清隆氏、岩切副信氏、永友宗義氏、その他調査に協力して下さった多くの方々に対し、深甚の謝意を表するものであります。

昭和五十五年三月

高鍋町文化財審議委員長 石川正雄

一、神 社

(一) 北高鍋

(1) 熊野神社(無格社)大字北高鍋字道具小路一、二九三

一、祭神 速玉男神 はやたまのおのみかみ 事解男神 ことあひのみかみ 菊理日売神 くくりひめのみかみ

一、例祭 七月一三日 十一月九日

一、由緒 建立年月不明、明治四〇年一〇月二日明細帳

編入許可、元順礼堂権現及び霧島大権現(古町)

も合祀されている。

一、境内の面積、建造物

四八一平方メートル、本殿、幣殿、拝殿

(2) 多賀神社(元村社)大字北高鍋字道具小路一、二七六

一、祭神 伊弉諾尊 いざなのみこと

一、例祭 七月一三日 十一月九日

一、由緒 創建の由来不明、延宝七年(一六七九)九月

二九日再興、明治四年村社となる。

一、境内の面積、建造物その他

一、〇六二平方メートル、本殿、渡殿、拝殿

余説 天保五年寺社帳の「白鬚大將軍」で、通称「デ

ジョゴンサ」(大將軍様)といつて親しんだ神社

である。その東(郵便局角より北へ行く道路)に

蓮の生える南北に長い池があり、これを「デジョゴン池」と呼び、鮎、鯉の多くいる池であった。白鬚神社―多賀神社の祭神は本来は猿田彦命を祭り、牛馬の守護神である。これを「大將軍」と呼ぶのは異例である。

(3) 稲荷神社 大字北高鍋字御屋敷四二八八ノ一

一、祭神 宇賀魂神(倉稲魂神)

一、例祭 旧二月初午 旧九月初午

一、由緒 光明天皇の曆応四年(北朝)南朝では後村上天皇興国二年、(一三四一)創立、屋敷一反、文

政一〇年社殿修覆、明治一〇年一月一四日火災、

社殿焼失に付再建、二四年洪水のため社地陥没、

同年九月八日現地に遷座、古来士民の尊崇厚く、

旧高鍋藩より祭祀料寄附あり祭典も厚かつたが、

たまたま明細帳に漏れていた。(貞享、天保両寺

社帳にも記載がない)氏子並びに崇敬者は大正一

一年一月一五日脱漏編入を願い出て同一三年一月

二四日明細帳編入の許可があった。(児湯郡神社

明細帳宮崎県)。

一、境内の面積、建造物その他

一、境内の面積、建造物その他

三、四五七平方メートル。本殿、幣殿、拝殿

(4) 菅原神社 大字北高鍋字菖蒲池天神鶴四、五四五

一、祭神 菅原道真

一、例祭 七月二五日 十一月二五日

一、由緒 元、菖蒲池天神宮と言う。同神社の「菅原神

社系図によると、延徳三年（一四九二）十一月二

八日財部城主財部太郎權守田部朝臣（財部大明神

縁起に、土持田部興綱、財部太郎權守大宗綱公菖

蒲池天神宮勸請延徳三年辛亥十一月二八日とある）

大工黒木次郎左衛門、大宮司五郎左衛門と記され、

その後大永六年（一五二六）二月一六日源朝臣

為由が造興し、寛永十一年（一六三四）六月一八

日大宮司湯前平右衛門造堂、享和四年（一七一九）

一〇月黒木重寛建立、大正二四年（一九二五）氏

子総代松山梁一外三名委員岩村徳太郎外一名、

棟梁小畑徳右エ門等が本殿、祝詞殿、拝殿を造堂

した旨が記されている。

同神社境内に初代宮司黒木平右衛門の碑なるも

のが建立せられているが、右系図には全くない。

口碑には秋月氏が築前より財部移封の際、太宰府

天神の分霊を黒木某という者が背負うて来て城内

天神と菖蒲池天神とに祭つたと伝えている。それ

ならば天正十五年のことで、延徳三年から九七年

後であるから初代宮司とは言えない。またそのこ

とは本藩実録その他の記録にも見えない。黒木某

の墓は元菖蒲池墓地に在ったが、昭和四〇年国道

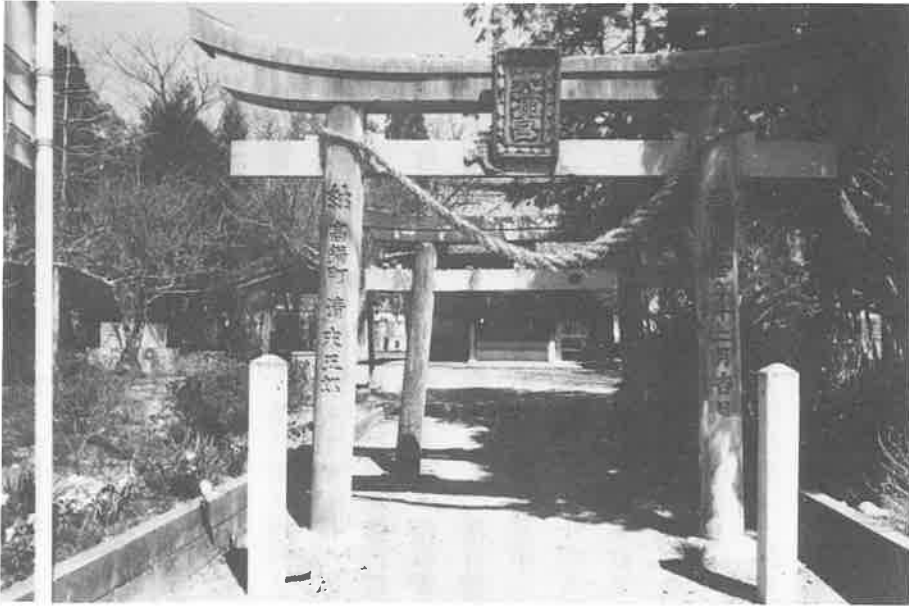
一〇号線が墓地を通ることになったため、移され

てこの碑の裏に建てられている。

一、撰社 稻荷神社（祭神、倉稻魂神）

一、境内の面積、建造物その他

六三九平方メートル、本殿、祝詞殿、拝殿



菅原神社 (菖蒲池西)



稻荷神社 (御屋敷)

(5) 毛比呂計神社（元村社）大字北高鍋中鶴屋敷二〇一

五イ号

一、祭神 三筒男神（底筒男神、中筒男神、表筒男神）

一、例祭 七月七日 一二月七日

一、由緒 元は茂広毛平付にあつたが建立年月は不明。

貞享寺社帳に永享二年（一四四〇）三月一七日

田部金綱（土持氏）再興、大工藤原為久、鍛冶藤

原重宣、神主長友紀伊、裳広解大明神と記してあ

る。天保四年の高鍋鎮座神名帳には、永祿一〇年

（一五六七）正月二八日野村助左衛門尉源泰綱再

興、当代官落合藤九郎藤原兼萱、作事奉行江藤源

六左衛門、神主太郎次郎とある。落合藤九郎は伊

東氏の家臣である。その外、寛永元年（一六二四）

慶安二年（一六四九）貞享二年（一六八四）宝永

七年（一七一〇）その他数回造営されている。元

の神社跡には自然石に元茂広毛神社跡という碑が

あり、裏面に昭和五年一二月建立、氏子総代新名

鶴太郎以下七名、発起人則松喜又と刻まれている。

明治九年に中鶴屋敷に移された。（宮司記録）

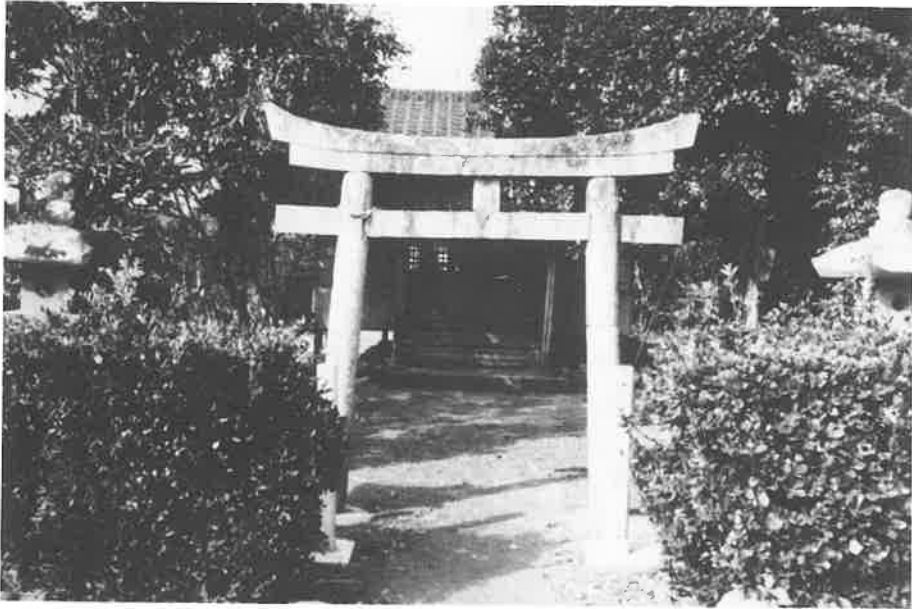
一、毛比呂計の地名と福智王

毛比呂計は地名で、茂広毛、藻広毛、裳広解、級

紘とも書かれている。児湯青果地方卸市場のある

地一帯で、宮田川を距てて市場の対岸に元神社は
建ち、藩政時代には市場のすぐ西に藻広毛お茶屋
が建つていた。

毛比呂計神社の祭神は、比木神社の祭神、朝鮮
の王族福智王であるともいう。福智王は父禎嘉王
（神門神社祭神）と共にこの地の上陸し、ぬれた
裳（衣服）をひろげて干した所、又は帆をひろげ
て乾したので、「帆ひろげ」、その転音が「もひろ
げ」であるともいう。また近くに鞍を掛けて干し
た鞍掛の地名、福智王一行の乗って来た舟の沈没
による石舟の地名を伝えている、と日州児湯郡高
鍋比木大明神本録にあるが、宮崎県史蹟調査報告
第五輯では「百済王にかかる紀記中禎嘉王漂着云
々の記事なく、且禎嘉王漂着の時を、本邦孝謙天
皇の御代と記しあるも、百済の滅亡はそれ以前に
して符合せざる点少しとせず」と言っている。し
かし、禎嘉王を祭るといふ東旧杵郡南郷村神門神
社と、その子福智王を祭る木城町比木神社、また
一説に福智王も祭るといふ当社、禎嘉王の妃之伎
能を祭る持田の大年神社等の特種神事が古来よ
り続いていることは民俗研究上からも興味があ
る。



毛比呂計神社（中鶴屋敷）

- 一、摂神 熊野神社 祭神 櫛御氣野命くしみけのみこと
- 一、境内面積、建造物その他

二五〇平方メートル。本殿、幣殿、拝殿

(6) 稻荷神社いなり（無格社）大字北高鍋字中鶴（樋渡）

- 一、祭神 倉稻魂神うらのたまのたま

一、例祭 初午 十一月二四日

一、由緒 境内の面積、建造物 六六〇平方メートル、

元大峯と樋渡の境の田圃中であつたものを約二八

〇年前に移したと、椿山に口碑として伝わる。文

献は無い。

(7) 稻荷神社いなり（無格社）大字北高鍋字下屋敷

- 一、祭神 倉稻魂神うらのたまのたま

一、例祭 七月二五日 十一月下旬の休日

一、境内面積 約九〇平方メートル。本殿のみの小祠。

(8) 潮神社うしほ（元無格社）北高鍋字萩原

- 一、祭神 少童命

一、例祭 七月一五日 十一月三日（今は初旬休日）

一、由緒 高鍋鎮座神名帳に「勧請之年月不知、三間に

式間萱葺、拝殿之内に小社有、祭札十一月三日御

神楽有り」と記されている。

一、境内の面積、建造物その他

約二〇〇平方メートル。本殿は公民館として用い

るため改造され、本殿はその奥に祭られている。

境内入口に元萩原地区にあった小さな大師がある。

(9) 稻荷神社（無格社）大字北高鍋字稻荷町四七四一

一、祭神 倉稻魂神うがのたまのたま

一、例祭 初午の日 一月下旬の休日

一、由緒 創建年月不明

(10) 立花神社（元村社）大字北高鍋九八〇番地

一、祭神 天饒石国饒石天津彦火瓊々杵命あめにぎしくにぎしあまつひこほのにぎひのたま

合祀 天照大神（伊勢神社）明治四〇年一月一二日

倉稻魂命（若宮神社）同

菅原道真（菅原神社）同

一、例祭 七月二六日 十一月二六日

一、由緒 創建詳かならず

一説 本社は鹿児島県霧島神宮の御分霊を齋き祭りたる社で、天正年間（一五七五頃）大友宗麟日向乱入の時は社殿ありと云い伝えらる。

明治四年村社列格、日向国神社纂記に霧島神社と

あり、比木寺社帳には、宮越村霧島大権現、神名録には宮越村霧島神社、祭神は彦火瓊々杵命を祭るとある。

明治四〇年三月二日、畑田鎮座伊勢神社、宮越鎮座若宮神社、小丸鎮座菅原神社を当社に合祀願い出、同年一月一二日認可、明治四二年九月一八日立花神社の社号変更認可。

旧社殿は昭和二〇年の台風で全壊、仮社殿にて祭祀執行、昭和四四年七月二五日現神社埃工落成、同時に神社本庁より「神社振興対策指定神社」となる。

一、境内 面積 一、〇〇〇平方メートル

一、建造物 本殿 一間 一間 神明造り 銅板葺き

祝詞殿二間 三間 入母屋造り

拜殿 三間 四間 入母屋造り銅板葺き

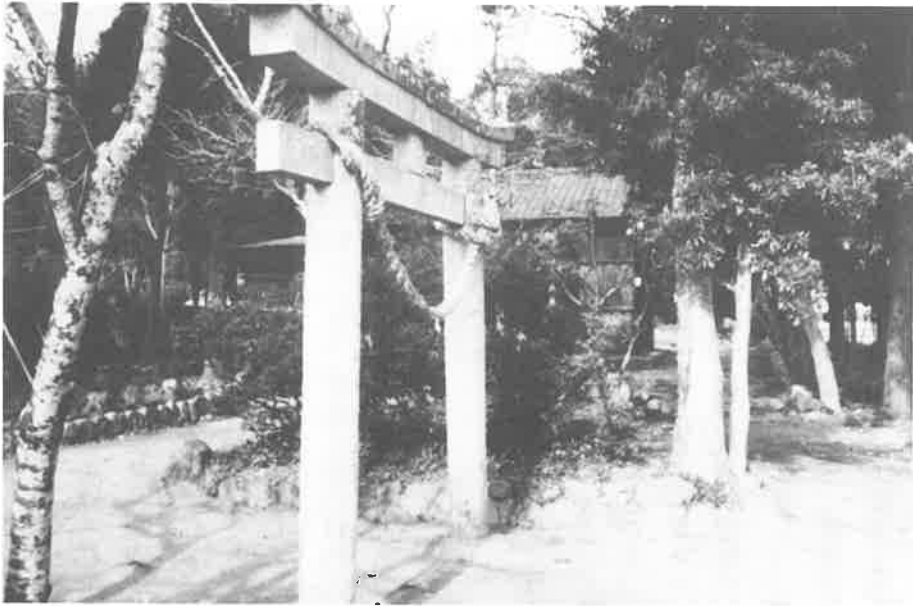
社務所二間半 四間 平屋瓦葺き

祭器庫一間半 二間 平屋スレート葺き

余説 最近町三大夏祭りでおみ興、太鼓台、前夜祭は名声を呼び、奉賛会事業神社改築にて参拝者が多い。



立花神社 (宮越)



川田神社 (川田)

(二) 南 高 鍋

(11) 熊野神社 大字南高鍋字上地頭用一二、〇二六の一

一、祭神 磐長姫命 稻蒼魂命

一、例祭 七月九日 十一月九日

一、由緒 創立年月日は明らかでないが、児湯郡神社明

細帳によると、寛文・延宝(一六六一〜八〇)のころの旧記に依れば治承四年(一一八〇)(平安朝末)五月二十五日児湯郡長谷住宇治弥平太兼通の時に長谷三所大権現を移転遷宮したとあり、その後、文明(一四六九〜八六)寛政(一七八九〜八〇〇)嘉永(一八四八〜五四)年間に社殿を改造し、その後明治三二年社殿を造営し、同四〇年九月一九日明細帳に編入し、同四一年四月七日、同所の地藏坂下の稻荷神社を合祀し、同四三年古場より移転し現在地に鎮座した。ここに記されている限りでは、高鍋では大年神社に次ぐ古い神社ということになる。

大正九年鉄道が境内を通った為、鳥居は線路の東側となった。

一、境内の面積、建造物その他

一、九一〇平方メートル。本殿、拝殿、祝詞殿

(12) 熊野神社(元村社) 大字南高鍋字高岡一一、五七七

ノ二

一、祭神 速玉男神 事解男神 菊理日壳神

一、例祭 二十日に該当する日(九月一日または二日)

一、由緒 天保四年(一八三三)永友因幡宗範から奉行

所に提出した「高鍋鎮座神名帳」によると、勧請年月は不明であるが、寛文元年(一六六一)享保七年(一七二二)に再興し、祭礼は一月一二日の由が記されている。元来雲雀山村内にあったが明治四二年(一九〇九)二月二五日高岡へ移転した。

一、ゴマ様と熊野神社と石像

明治四二年熊野神社を移転したのには次の理由がある。

高岡山のことを通常「ゴマサ」という。「サ」は「サマ(様)」の約音である。「ゴマ」とは梵語の *Goma* 梵焼・火祭の意である。密教で火炉を設け、乳木を焚いて仏に祈ることをいう。護摩と書き、智慧の火で煩惱の薪を焚き、真理の聖火を以て魔害を焼尽くす標識とし、不動尊を本尊とし、その前に壇を設け行う修法である。息災・増益・降伏鉤召(まねく)・敬愛の五種がある。

高岡山はその護摩が行われたところである。地福寺末寺の恵成院が、寛政五年（一七九三）七月八日、高岡山に一二間四方の護摩法壇場（護摩を焚く壇）を作ることをお願い出て許可され、一〇月一日に護摩法要を行った由が、旧記抜書巻二、続実録巻八に記録せられている。

熊野神社は熊野三所権現を祭り、熊野神社の総本社は熊野三社（本宮・速玉・那智の三大社）で修験僧の道場となっており、同一場所から護摩の修法も行われ、類似点があるところから、同一場所に明治四二年に移転したのである。

同所にある三体の石像も修験道に關係のあるものである。中央に不動明王、右に役の行者、左に理源大師の像があり、文化五戊辰七月、宮崎古城、大越家円立院作の刻銘がある。元水谷原で祭っていた。

二十日に祭礼を行い、当日は農家の参拝者の多かったのは、この祭礼に護摩を焚き豊作の祈禱を行ったからであり、その場所を尊称して「ゴマサ」と云ったものである。

一、祭神 国家公共に尽した人の神靈七九八柱

明治元年戊辰の役 戦死者一一柱

明治七年佐賀の乱 同 二柱

明治一〇年西南の役 同 二柱

明治二七・八年日清戦争 同 三柱

明治三七・八年日露戦争 同 三二柱

昭和一二・二〇年大東亜戦争 同 七四八柱

一、例祭 三月一五日（現在は桜祭に合せて行う）

一〇月一五日

一、由緒 明治二年、戊辰の役に戦死した官軍戦没者の

慰霊のため、東京九段に招魂社（現靖国神社）が

建立された。各藩でもこれにならい、高鍋藩では

明治三年、城跡中段の東端に招魂社を建立し、官

祭高鍋招魂社とし戊辰の役戦死者鈴木来助以下一

柱を祀った。初代宮司は飯田清年である。その後

逐次前記の神靈を合祀した。昭和一五年紀元二六

〇〇年記念祝典が行われ勅令をもって高鍋護国神

社に昇格され、神殿を現在地に移した。昭和三四

年四月護国神社奉賛会を設立し、昭和三八年神殿

を改築し現在に至っている。

一一、境内の面積その他

一〇、三三〇平方メートル。本殿、社務所

(13) 高鍋護国神社 大字南高鍋字旧城内六九四〇



護国神社 (旧城内)



宮田神社 (宮田)

(14) 霧島神社 (元村社) 大字南高鍋字前古場

一、祭神 瓊々杵命にぎはひのみこと

一、由緒 不詳

一、社殿 社殿無し、矛を以て壺とす。

境内の面積 一二九坪

(15) 權現 (比木御幣下) 大字南高鍋字長谷

一、祭神 本地觀音

一、例祭 一月一四日

一、由緒 不詳

一、社殿 小社大板葺

(16) 金比羅神社 (元無格社) 大字南高鍋字水谷原

一、祭神 大物主命おほものぬしのみこと

一、例祭 三月一〇日 一〇月一〇日

一、由緒 不詳

一、社殿 本殿のみ

一、境内の面積 六八坪 民有地第二種

その他 高鍋町火産靈神社氏子物代が兼務して祭りを行う。

一、祭神 速須佐之男命はやすけのみこと 榎稲田長姫命くしなだひめのみこと 建御雷神たけみかづらのかみ

一、由緒 筑前より御勸請之由申傳う。建立之年月不明

一、社殿 拜殿二間三間

一、その他 比木神社ゆかりの神社で、福智王の妃を祀ると伝えられる。旧藩主秋月氏の信仰厚く、社領

七石五斗を受け祭典費一切寄進されていた。藩政時代は宮田寺社僧により祭祀が営まれていた。

(18) 川上神社 (元村社) 大字南高鍋字大平寺

一、祭神 與止比賣神よとひめのみこと

一、由緒 不詳

一、社殿 本殿 竪二尺五寸 拜殿 竪二間 横三 尺 横二間半

一、境内の面積 五〇四坪

一、その他 夏祭旧六月二八日秋祭一〇月二九日

(三) 高鍋町

(19) 八坂神社 大字高鍋町五二八

一、祭神 素盞鳴尊すさのおのり 榎稲田姫命くしなだひめのみこと

一、例祭 元旦祭 (一月一日)、春祭 (三月二〇日)、夏祭 (七月一四日)、七五三祭 (十一月五日)、例祭 (七月一四日)、七五三祭 (十一月五日)、例祭 (七月一四日)

(17) 宮田神社 (元村社) 大字南高鍋字宮田

一二月一四日)、歳旦祭(一二月三一日)

一、由緒 慶長一三年高鍋祇園社建立せらる。旧藩主秋月公より神領、祭典料、社殿費を寄進せられたるも、明治維新の祭、高鍋県社となり、廃藩時に廃せられて、明治四年一月、高鍋地方郷社となる。農業、厄除、開進、国民和合、縁結び、福の神などなどの御神徳がありとし通称、祇園さんと呼ばれている。

一、境内面積 五五六坪六合

一、建物面積 本殿五坪五合、拝殿一坪、祝詞殿五坪、手洗所一坪、社務所一〇坪、摂社二坪
其後、社殿破損修理のため、岩切副年宮司の時、奉賛会をつくり、昭和四三年六月、社殿及び社務所の修復を行った。

摂社 稻荷神社

祭神 宇賀魂神

(20) 火産靈神社 大字高鍋町六〇八

一、祭神 火産靈神

一、例祭 夏祭(七月二六、七日)、冬祭(十一月二六、七日)

一、由緒 昔、八坂神社が元祇園(現在墓地のある附近)

にあった頃、その同じ場所に安置されていたが、高鍋町がたびたび火災にあったので、その災難を逃れ、町の安全を願うため、現在の下町の場所に移し、お祀りするようになったという口碑がある。火の神として、また、われわれは荒神さんと言って親しんでいる。

境内面積 三百九四坪五合

建物面積 本殿神明造間口一間、奥行一間、幣殿三坪、

拝殿七坪、祭器庫三坪

摂社 稻荷神社

祭神 宇賀魂命

摂社 事代主神社

祭神 事代主神

摂社 賀茂神社

祭神 賀茂別雷神



八坂神社（南町）



火産靈神社（六日町）

(四) 蚊口浦

(21) 鶺鴒神社(元村社) 大字蚊口浦字蚊口一の一

一、祭神 鶺鴒草葺不合命

合祀

天照大御神 天之忍穗耳命 穗々出見命

須佐之男命 邇々芸命

一、例祭 七月一八日 一月一八日

一、由緒 創建年月日不明。官弊社鶺鴒神社宮の分霊を祭

るとも伝えられる。官司岩切副年氏の書いた同社

略誌に、寛正三年(一四六二)一〇月の社殿再興

の棟札写があるという。また奉仕神主の系統を書

いたもの二巻があつたが、初巻は失われて一巻だ

けある。それによると、岩切次郎、日下部立次、

以下、岩切を称する日下部姓三九世にて岩切副教

に続き、次が岩切副年、四一世が副信である。今

はそれも失われ明治四五年の記録がある。

一、撰社 稻荷神社(稻倉魂命) 戸柱神社(秋津彦命、

秋津姫命) 翁神社(猿田彦命) 火産霊神社(

火産霊命) 若宮神社(須芦命) 木花開耶姫命)

一、境内の面積 建造物その他

一、八七四平方メートル。本殿、祝詞殿、拝殿、

社務所、芭蕉句碑(うたがふな潮の花も浦の春)。

古墳二基(県指定昭和十二年七月二日。紀元二六

〇〇年記念伝説顕彰碑)

例祭の外に次の祭がある。

(1) おすずのくちあけ、一月一日。年初の神楽奉納。氏子中(三四三戸)に鏡餅を配る。

(2) なぎさまつり、七月一八日。神輿を蚊口港岸の

仮屋に渡して祭り、古来例祭以上に大切な祭典で

あつた。祭神がいずこからか来り上陸したことを

敬慕する祭という。

(3) 病祈念 八月二二日 悪疫を除く祈願祭

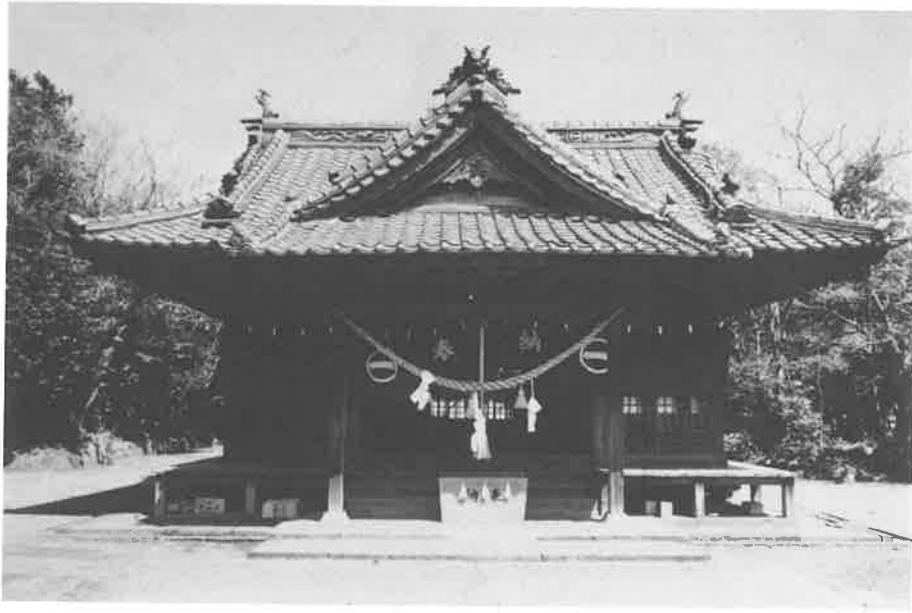
(4) 若宮祭 一月一七日 撰神若宮の祭

(5) 塚祭 一月一九日 古墳祭

(6) わこおくり 一月一日 社後の川岸に立つて

神酒を献じ、対岸に至りまた神酒を献じて帰る。

わことは神武天皇だと伝える。(鶺鴒神社略誌)



鵜戸神社（蚊口）

(22) 菅原神社 大字蚊口浦字蚊口一九の七

一、祭神 菅原道実

一、例祭 七月二五日 十一月二五日

一、由緒 正保三年（一六四六）高鍋城内に天神神社を祭った時、その分霊を当所に祭ったと口碑に伝えられると神社明細帳に記されている。石鳥居に「元文元丙辰年正月再建」（一七三六）と刻してあり、又社殿棟木に「寛政十戊午年三月十四日」（一七九八）と記しあったことが、前記の明細帳に記されている。

明治四年、栗野大明神（素盞鳴尊、少彦名命、大己貴命）を合祀した。

一、境内の面積

七四二平方メートル、本殿、幣殿、拝殿



舞鶴神社(旧城内)

(五) 上江

(23) 舞鶴神社 (元県社) 大字上江字島田一、三四五

一、祭神(1)品陀和気命(応神天皇)住吉三箇男神

武内宿禰(高良神社)

(2)菅原道真

(3)漢高祖、後漢靈帝、阿知使主

(4)闇淤加美神

(5)早魂緒神、事解男神、菊理姫神

(6)城主大明神

(7)土持玄蕃允田部直綱

(8)秋月家歴世の神霊

一、例祭 七月一日、十一月一日

一、由緒 高鍋藩政時代には、右の祭神は(1)より(7)まではそれぞれ別個の神社として祭られていた。明治四年七月廃藩に当り、高鍋の住者の総意により、(1)より(7)までの神社を合祀し、併せて(8)秋月家歴世の神霊を配し、旧城名を取って舞鶴神社と言ひ昭和一七年、宮崎県社となつた。

(1)八幡神社、品陀和気命(応神天皇)住吉三箇男

神(底箇男神、中箇男神、表箇男神)高良(武

内宿禰)を祭つた。秋月家の祖、大蔵春実が勅

命によつて藤原純友の乱を鎮めた時、八幡宮に

祈つて靈験があつたので、天慶六年（九四三）筑前国（福岡県）夜須郡秋月村南宮岳に勧請し、秋月八幡宮と言つた。天正一五年（一五八七）日向に封を移された時、種長は高鍋城の左翼（現在の舞鶴神社）に祭つた。

(2) 天神神社（後に菅原神社）

正保三年（一六四六）二代藩主種春が、秋月氏の旧領である太宰府の原廟として高鍋城の右翼（葦崎西の台地、井戸が残っている）に八幡神社と対峙して祭つた。

(3) 白山神社 漢の高祖、後漢の靈帝、阿知使臣は秋月氏の遠祖で、初の筑前国秋月の白髮嶽（古所山）に祭っていたが、日向移封に当り高鍋城の八幡神社と同所に祭つた。

(4) 龍宮神社 闇遊加美神を祭る。筑前以来八幡神社の摂社である。

(5) 熊野神社 早魂緒神 事解男神 菊理姫神を祭る。八幡神社の摂社である。

(6) 城主大明神 祭神は明らかでないが古来城の后土を祭つたものであろうといわれている。

(7) 財部大明神 前の財部（高鍋の旧名）の領主土持玄蕃允田部直綱の外、財部太郎三河守親綱（

金陽朝公、財部甲斐守朝綱（長朝栄公）、財部太郎権守興綱（太宗綱公）、財部三河守兼綱（性海金公）、武綱、財部左衛門尉高綱（梁山棟公）太郎惟綱が合祀されている。初の城内に小祠あり、享保五年（一七二〇）種弘これを再興し、天神神社と同所に祭つた。（高鍋大明神縁起）

大正九年（一九二〇）四月二日秋月種樹を祭神とすることを許可せられ大正一四年（一九二五）一月九日、内務省宮社第一四号にて郷社に列した。昭和一七年一〇月一〇日神祇院一七宮崎総第一一号で宮崎県社とした。

一、境内の面積、建造物その他

旧高鍋城（舞鶴城）内二の丸にある。六、二二四平方メートル。本殿、御供殿、神門、祓殿、社務所。神門には柿原宗敬外の献額二面がある。長友勘右衛門水路功績記念碑、殉難招魂之碑、高鍋藩領境界標、種樹公漢詩碑、寒山捨得石像、国指定天然物高鍋のクス（昭和二六、六、九、指定）近くに万歳亭、秋月邸がある。種樹公漢詩碑には次の詩が刻まれている。

家枕湘江得景多 入窓駿嶺雪峨々
相逢朝暮釣魚叟 不説世波觀海波

公は晩年神奈川県片瀬の別荘に住み明治三十七年そこで歿した。その歳の公の詠詩を翌三十八年そこにこの詩碑を建てたが、大正の初め高鍋に移された。詩人にして書家の公の風格を偲ぶことができる。

一、参考文献

○児湯郡神社明細帳 第十一号永年 宮崎県とあり宮崎県立図書館蔵 この中、舞鶴神社については昭和十七年十一月社司鈴木重次氏子惣代山内武玄以下九名が連署捺印して届出ている。

○貞享四年、天保五年寺社帳。

○舞鶴神社記 城勇雄が書き平部嶠南が明治七年に評をしている。

○舞鶴神社記 堤長発の調べたものを原田年実が写し更に武藤麒一が写したものである。

○舞鶴神社記 昭和一三年一〇月一八日舞鶴神社御由緒調査委員が設けられ、委員長鈴木重次、委員主査武藤麒一が調査執筆して昭和十四年三月十日高鍋城跡保存会理事長柿原政一郎に提出した報告書の写（六四頁）である。昭和四六年発見し高鍋図書館蔵本とした。前掲の書とは全く異なる。報告書はまだ発見せられない。

○財部大明神縁起（永友主膳）高鍋図書館蔵



愛宕神社（黒谷）

(24) 愛宕神社（元郷社）大字上江字黒谷一四〇五

一、祭神 火産靈大神（鉾を神体）

一、例祭 一月二四日

一、由緒 創建詳かならず。

旧藩主秋月氏歴代並びに民家の尊崇が深い。

藩主より特に神領七石五斗、祭典米四斗及び祭器一切の寄進の社であった。郷社列格明治四年二月にて、上江、持田の郷社、三宝荒神（火の神）とし崇敬す。明治初年現在地に移す。

一説 秋月氏高鍋に封ぜらるる以前より、山伏宗地福寺内に鎮座せしを、正保三年（一六四六）城内葺崎口上に勧請、寛文年間（一六六六頃）に現在地山上に移され、愛宕寺社僧により祭祀明治初年（一八七〇）現在地に社殿建立。

一、境内 面積 四一〇〇平方メートル

一、社殿 本殿 一間に二間

祝詞殿二間に二間

拝殿 三間に四間

社務所七坪

(25) 金刀比羅神社（元村社）大字上江平原一六六三ノロ

一、祭神 大物主神 他二神

一、例祭 一月一〇日

一、合祀 稻荷神社 祭神 豊宇氣比売命（まよけひめのみこと）

菅原神社 祭神 菅原道真

（明治四三年八月二〇日合祀）

一、由緒 詳かならず

一、一説 平原地域の産土神。昔時飯長寺跡に建立、昔

修験派（山伏宗）の里寺建立、明治四年廃寺、当

住職飯田清年神官となり宮司を掌どる。金比羅神

社は飯長寺境内神とし勧請当住職により祀られて

いた。神体は「クンピラ」薬師十二神将の一、

海の守護神として尊崇厚し、明治維新後神仏分離

により、大物主命、崇徳上皇を祭神として登録。

一、境内 面積 二九八〇平方メートル

建築 現社殿 昭和二七年八月三〇日

本殿 一・二五坪

祝詞殿 一・五坪

拜殿 六坪

奥ノ宮 〇・六坪

社務所 四・五坪

倉庫 一・五坪

展望良好、飯長寺跡には坂田稲太郎、財津吉恵の
記念碑墓石あり、古来海の神として大相撲の奉納

は有名。

(26) 川田神社（元村社）大字上江字川田二一九四

一、祭神 速秋津日古神 速玉男命（はやあきつひこのかみ はやたまのおみこと）

事解男命 菊理姫命（ことよめるのおみこと くりあひめのみこと）

一、例祭 一月一五日

一、由緒 永禄五年（一五六二）九月七日、速秋津彦神

を川田寺一二代住職法印大乘坊大國儀に於て勧請、

天正一五年九月三日（一五八七）竹原忠左衛門、

秋月種長筑前より日向財部に移封にあたり、事解

男命、速玉男命、菊理姫命の熊野三神を勧請、住

職山城坊大周舜が併せ祭る。後元禄一六年（一七

〇三）六月城主秋月種政参拜、神領地七石五斗を

寄進、尚ほ竹原氏より勧請の由来を機縁とし、毎

年祭典米料一斗五升を藩末まで継続。

明治六年一月磐若院、成就院より、鳥居老基

寄進、享保八年（一七二三）正月一五日、神殿、

渡殿の改築、弘化二年（一八四五）三月改築往時

より川田大権現として祭った。明治維新頃荒廢の

後又旧体に復し、川田神社と改称した。

一、境内 面積 五七〇平方メートル

建築 社殿 総坪 一四坪

(本殿、幣殿、拝殿、玄関平屋瓦葺)

(27) 菅原神社 (元村社) 大字上江字青木三七六六

一、祭神 菅原道真

合祀 愛宕神社 (祭神火産靈神)

(明治四三年三月一八日合祀)

一、例祭 十一月二五日

一、由緒 創立年月日不詳

口碑によれば、宝永年以前(一七〇〇年頃)勧請したと、日向地誌、日向案内記にあるという。

一、境内 面積 八九〇平方メートル

神殿 神明流れ造り

幣殿 拝殿 は切妻平屋瓦葺き

(28) 巖島神社 (元無格社) 大字上江字野首三九七七

一、祭神 市寸嶋比売命 日子火能迺々芸命

別社 稲荷神社 (受持大神)

一、例祭 一〇月二六日

一、由緒 創建不詳

口碑によれば、木城比木神社と交友の神社の由伝えられる。

一、境内 面積 三八三平方メートル

社殿 二間に二間半、平屋瓦葺き。

宝物 神鏡一箇 (藤原金吉の銘)

(29) 菅原神社 (元村社) 大字上江市山六七六五ノ九三

一、祭神 菅原道真

合祀 牧神社 (祭神猿田彦大神) 明四二・三・三

〇合

愛宕神社 (祭神迦具土神) 明四二・三・一八合

熊野神社 (祭神熊野三神)

一、例祭 十一月二五日

一、由緒 不詳

古老口碑には、天正年間豊後の大友宗麟の荒すところ、宝物古文書焼失せると、宝永の頃社殿再建せりと。

一、境内 面積 六九二平方メートル

社殿 本殿 一間半に一間半

幣殿 二間に一間半

拝殿 三間に二間半

(30) 菅原神社 (元村社) 大字上江字老瀬五六七六

一、祭神 菅原道真

春日大神

一、例祭 七月二五日 一二月二五日

一、由緒 創立年月不詳

古老の伝えでは、創建は天正年間、宝永の頃再建の由、市山、青木、老瀬の三神社としてよく知られている。現在老瀬公民館に遷座。

一、境内 面積 三九六平方メートル

社殿、本殿、祝詞殿、拝殿（一二坪）

(31) 若宮大明神（元無格社）大字上江字木ノ瀬（古江宅）

一、祭神 倉稻魂命うらのみたまのみこと

一、例祭 由緒 不明

現在老瀬公民館に遷座

(32) 菅原神社（元村社）大字上江馬場原

一、祭神 菅原道真

一、例祭 七月二五日 一二月二五日

一、由緒 不明 石井十次が朝晩学校として使用したことがあ

とがある。

(33) 日枝神社（元無格社）大字上江字山下

一、祭神 山王権現

一、例祭 七月二七日 一二月二七日

一、由緒 不明 口碑によれば次の通りである。

大正末期現在地に移した。それ以前は小寺信利氏の山上に奉祀され坂本姓の氏神とし、祭つていた由、近江国坂本城の地に祭られた山王権現で、承久の変（一二二一）に当地に移住した坂本一族の氏神で、昭和三〇年頃より山下地区で祭る様になった。

(34) 中島権現 平原中島村に鎮座

祭神、由緒不明、貞享年間高鍋の調査にあり。

(六) 持 田

(35) 大年神社（元村社）大字持田字大年

一、祭神 稲田姫命いなだひめのみこと

合祀 大年神、美年神、若年神、禎嘉王妃ていかおうひ

（之伎野しきのの）

一、例祭 一月六日（御鈴口開おすずくちあけ）七月二日 一二月四日

一、由緒 創建は第四六代孝謙天皇御宇以前比木神社と同時に創立、比木神社縁起に仁寿二年とあり。

代々秋月藩主の崇敬あつくしばしば代参あり、且つ社領地三反歩、社有田畑、祭典料等も下付せ

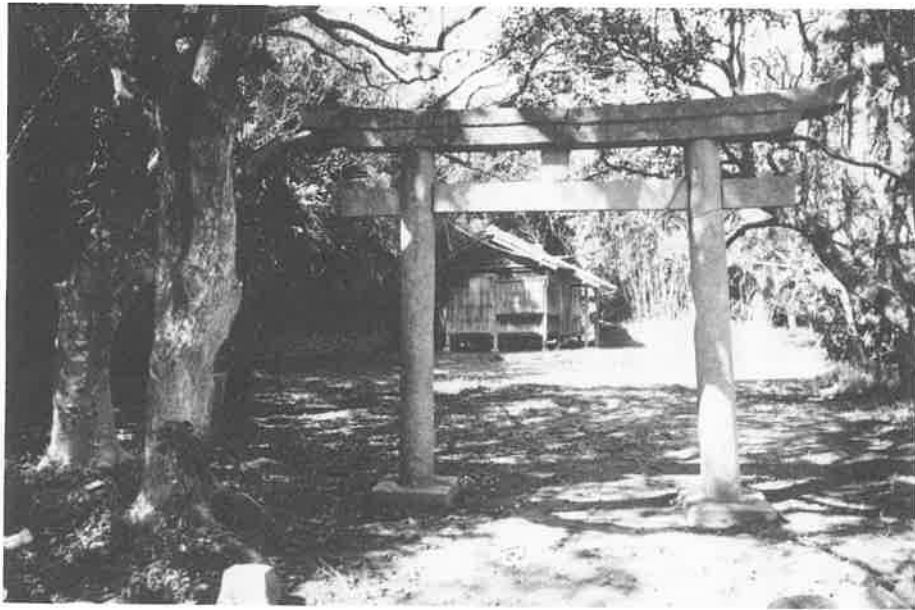
られ、元禄十年、宮永次郎右衛門が神主に任命されて
いる。

一、撰社 三古稻荷神社、愛宕神社、荒神社、朝倉神社
一、境内の面積 建造物 その他

敷地約三〇〇平方メートルの中に約二〇平方メ
ートルの木造瓦葺拝殿（東向き）昔は現在地より
高い所に鎮座し日向灘を航行する船を見守ったと
古老の言い伝えあり。

本社祭神稲田姫命は比木神社御祭神速須佐男神
の御妹神であり、又合祀の禰嘉王妃は東旧杵郡神
門神社祭神禰嘉王妃であり、比木神社祭神福智王
（百済王）の母君でもある（比木神社縁起）

尚鳥居の外側（参道手前約一〇メートル）に玉
石を敷き籬に囲まれた約二〇平方メートルの敷地
ありこれは毎年比木大明神の浜下りの際立寄られ
る休息所である。この浜下りの際の比木大明神御
神幸は袋神様と称し、神輿ではない。



大年神社（鳴野）

(36) 大宮社 大字持田字鳴野(日豊線東側松林中にあり)

一、祭神 大寺与惣右衛門

一、例祭 一〇月初酉日

一、由緒 日豊線開通(大正九年)によりたまたま其の線路に当るを以て旧位地より約一〇メートル東へ移す。

大寺与惣右衛門神靈墓と相列んで東向きに建つ墓石に刻まれた岩村真鉄氏撰文によると大寺与惣右衛門は天正乃至寛永の人で秋月種長公の御船に仕え誠敬神の志厚く比木神社等に樹を植え又金針を用いて医療を施す名人であった。与惣右衛門没後その婿堤長勝(高鍋藩士)は与惣右衛門の墓側に祠堂を建て大宮大明神の神号を追贈し永くその遺徳を祭ることとしたのが始まりである。

一、境内、建造物その他

二メートル四方のブロック製祠の中に祭る。

境内の面積約一〇〇平方メートル。

(37) 大明神 大字持田字鳴野(公民館敷地内)

一、祭神 天御中主大神

一、例祭 二月五日 九月午の日(駄祈念祭)

一、由緒 不詳。天保五年寺社帖には記録あり、大正か

ら昭和初期には社殿も大きく例祭日には夜神楽の奉納が行なわれ文字通り部落の崇敬の中心であった。

(38) 菅原神社 大字持田字勝利

一、祭神 菅原道真、阿弥陀如来

一、例祭 昔は旧暦月二五日であったが現在は一月二五日と六月二五日

一、由緒 創立天延元年一月二五日、明治五年現在地に遷座

一、境内の面積 建造物その他

境内約二〇〇平方メートル、拜殿三二平方メートル。

(39) 愛宕神社(元村社) 大字持田字坂本

一、祭神 火産靈神 八幡大神

一、例祭 七月二四日(夏祭) 九月午の日(駄祈念祭)

一二月二四日(例祭) 一〇月二八日(比木神社御神幸)

一、由緒 不詳、天保五年寺社帖には記録あり。

一、境内の面積 建造物その他

敷地約一〇〇〇平方メートル、拜殿四五平方メー

トル拝殿は現在坂本部落公民館として使用。

(40) 水天宮 大字持田字兀の下

一、祭神 水波女命 みづなみのめ 安徳天皇 あんとくてんのう

一、例祭 七月一六日(夏祭) 九月午の日(駄祈念祭)

一二月一日(例祭)

一、由緒 創建文治五年一二月十日

一、摂社 三石神社、稲荷神社、荒神社、愛宕神社

一、境内の面積 建造物その他

境内約三〇〇平方メートル、社殿二〇平方メートル。拝殿が部落公民館となっている。

(41) 家床天神(菅原神社) 大字持田字家床

一、祭神 菅原道真 すがわらみちまこと

一、由緒 由緒等については不明であるが天保寺社帳には既に記録あり、永友家屋敷内に在り

(42) 美年神社(元村社) 大字持田字切原

一、祭神 大年神 おほとしのかみ 美年神 みとしのかみ 若年神 わかとしのかみ 稲田姫命 いなだひめのみこと

一、例祭 一月一四日(どんど祭) 七月十五日、一二月

一五日、一〇月二八日(比木神社御神幸)

一、由緒 創立第四六代孝謙天皇御宇、元禄年間宮永次郎右衛門神主として任命され、毎年大年下りと称

して比木神社の神幸あり、行事等殆んど鳴野の大神社と同じ。

一、摂社 三古稲荷神社、愛宕神社、荒神社、朝倉神社
稲荷神社

一、境内の面積 建造物その他
敷地約八〇〇平方メートル

(43) 竹鳩神社 大字上江四三九五(竹鳩)

一、祭神 神武天皇 かみいむす

一、例祭 四月三日(春祭) 七月二六日(夏祭) 一〇月二八日(秋祭)

一、由緒 昭和四〇年に宮崎神宮より分祀、随って祭例日は宮崎神宮と同じ、竹鳩地区は新開地で古い社は無かったので地区の中心となる社を公民館敷地内に遷座したもの。

(六) 所在不明のその他の神社

以上の外、各時代の寺社帳に記載せられているが所在の明らかでない神社がある。恐らく他の神社に合祀せられたものである。以下寺社帳ごとに、所在不明の神社名を記し後考を待つこととしたい。

○天保五年高鍋藩寺社帳

- (1) 八大龍王、田之上村（通称ハッテロサカ）
(2) 権現、田添村、祭神少彦名命（天保四年寺社帳にも在る）

(3) 恵比寿社、高鍋町

(4) 天神、小薄村

(5) 山王権現、稻荷神社、山下村

(6) 金比羅神社、蚊口浦

(7) 浜山龍神、蚊口浦

(8) 巖島神社、蚊口浦

○天保四年高鍋鎮座神名帳

(9) 長谷大明神、長谷村

(10) 中鶴権現、「祭神素盞鳴尊、先年は神祭野に御鎮坐之處其後中鶴に御勧請申候由也」とある。

(11) 霧島大権現、中鶴村、祭神、彦火々出見命

(12) 恵比寿社、町、祭神、蛭児尊

二、寺 院

(一) 浄土宗

(1) 水徳山満月院円福寺 浄土宗 京都知恩院末

大字南高鍋六四〇五

一、本尊 阿弥陀仏 住職 多賀学英

一、創建 應永年中土持家建之

一、歴代住職 開山久意上人 見龍 唯念 道意 与傳

用善 其阿 空岸 臨慶 空雲 相誉

性誉 應誉 喜誉 薫誉 清誉 融誉

對誉 澄誉 恢誉 邦誉 亮誉 等誉

随誉 安誉 義誉 澄誉 関誉 香誉

念誉 孝誉 宣誉 学進 学英

その他 円福寺本堂は江戸時代中期火事で焼失したの

で明和三年(一七六六)第十七世住職融誉上人に

より再建されたが二〇〇年余の歳月を経て老朽化

はなほだしく昭和五十四年二月本堂改築の件が議

題になり種々協議を重ねて昭和五四年一二月改築

工事に着手し昭和五五年七月竣工予定である。

(2) 東松山称名院円浄寺 浄土宗 元円福寺末

大字蚊口浦字蚊口中一四の三

一、本尊 阿弥陀仏(昭和二〇年焼失) 住職 秋山玄仁

一、創建 慶長一二年(一六〇七) 建立 開山 空雲

一、歴代住職 貞享寺社帳と天保寺社帳とは相違があ

る。天保寺社帳が後代まであるので、それによ

つて記し(一)内に貞享寺社帳の分を記す。

開山空雲賢西(円福寺十代)(空雲) 正誉 宗誉

(玄察) 来誉(度伝) (三龍) 法誉 正誉 団誉

(円誉) 光誉 薫誉 学誉 念誉 見誉 栄誉

邦誉 在誉 唱誉 諦真 最誉

一、その他 寺院建築物は昭和二〇年の爆撃により焼失

したため、本堂は昭和三九年山門は五二年再建

一、余説 栄誉上人については盆踊の歌詞を作ったとい

う伝えがある。「日州高鍋蚊口の浦に、心中した

との口説(くどき)がござる」という文句のある

作があるというが、今は伝わっていない。

(3) 観音堂 浄土宗 元円福寺末

大字北高鍋字天神鶴四五九六の一

一、本尊 観音

右は天保寺社帳に記載せられていたところであ

る。昭和初年まで吉野円浄が堂守であったが現在

は信者が守護している。この地区の老婦人の集會

場となる。

一、境内面積その他

四七六平方メートル、拝殿と住居



円福寺(宮田)



円浄寺(蚊口中)



光福寺(蚊口下)

(二) 浄土真宗

(4) 栗田山称専寺 浄土真宗本願寺派

大字高鍋町七一六の一

一、本尊 阿弥陀如来 住職 栗田正典

一、創建 天正一八年(一五九〇) 釈常安開基

その初は筑前国(福岡県)栗田郡、秋月氏領にあり、覚永寺と号したが、天正一五年(一五八七)

秋月種長が国替えの時、常安はこれに従って来り

この地を寺領とし、天正一八年に堂宇を建立した。

天和二年(一六八二)一月四日京都西本願寺直

参として本尊阿弥陀如来木像(一尺五寸)を下附

され、称専寺と寺号を公称することを許された。

天保九年(一八三八)二月一四日高鍋町の大火

で焼失し、明治三二年(一八九九)再建し、昭和

五四年大修理を行った。歴代住職は次の通りである。

開山常安、祐善、雲山、順加、春海、了空、妙

音、泰順、浄安、諦順、靈円、靈順、量性、龍円

正典

一、その他 庫裏は安政三年(一八五六)三月建設、昭

和五五年改築、廟堂昭和四〇年建設、鐘楼、昭和

六年建設、梵鐘、昭和五三年改鑄

一、余説 高鍋藩初代藩主秋月種長の三女お種姫は西本

願寺の坊官下間大式という人の夫人になっていた。

ところから、秋月家の称専寺尊崇は特別なものが

あり、お種姫(法名釈尼妙種不退位)の没後、そ

の法要は称専寺で営まれた。また西本願寺でも称

専寺にしばしば使僧を派遣し、高鍋藩の記録にも

そのことが書き残されている。高鍋藩続本藩実録

の明和六年(一七六八)三月二四日の条に、大要

次の如く書いてある。

本願寺使僧称専寺へ宿泊。本御門主様新御門主

様より御書面が(殿様へ)参る。使僧護念寺住職

より殿様(種茂公)へ(お土産として)紫御ふく

さ五つ、御手縄三筋御家老方へ。御手縄(用途不

明)を社社役人、宗旨役人、町奉行の田村五郎治

へ差上げる。家老岡本八郎左衛門、内田新之丞が

本格の行列で称専寺へ挨拶へ差越。

四月二日、使僧帰りの節、覚照寺え止宿、見廻

りとして、安田李仲を差し遣わす。御家老が挨拶

に行かれる故。目付足軽、小頭足軽も遣わす。

(巻之二、八一頁)

同様の記録が安永元年、寛政一二年にも見える。



称 専 寺 (本町)

また、最近本堂修理の際、第八代藩主種徳公の泰雲院殿前城州太守実山宗真大居士という漆塗の位牌が見付かっている。

称専寺と秋月家との関係、本願寺との関係、当地方（高鍋藩）の浄土真宗における棟梁としての称専寺がうかがえることは注目すべきである。



円 智 寺 (道具小路)

(5) 正報山光福寺 浄土真宗 本願寺派

一、本尊 阿弥陀如来 木像立像一尺八寸

住職 西方康範

一、創建 貞享寺社帳によれば永祿元年（一五五八）寺

伝では文祿二年（一五九三）である。貞享寺社帳

は逆算年数一二九九年が一致するところからみると

前の方が正しいかと思われる。昭和五年宮崎県史

蹟調査報告は寛永三年（一六二六）二月七日とする。

天保一二年（一八四一）火災のため旧記什宝の類

焼のためその由来を詳らかに知り得ない。寺内碑

文によると文化一四年（一八一七）再興。昭和五

年六月改築、昭和二〇年戦災のため焼失、本尊は

住職が死守して事なきを得たという。昭和四七年

本堂新築、鐘楼、梵鐘は昭和五四年再建。庫裏は

明治四一年以来無事という。

開山は浄恩、以下住職は浄祐、栄現、浄運、浄

徴、浄智、浄有、浄知、浄円、浄賢、浄慶、浄教

浄英、浄範

一、境内の面積、建造物

一三二〇平方メートル、自然石の再建記念碑が

あり撰文は康範。

(6) 光明山覚照寺 浄土真宗 本願寺派

大字上江一八七六番地

一、本尊 阿弥陀如来 住職 篠原光昭

一、創建 天正一八年（一五九〇）

一、歴代住職

初代 篠原新六 六代 篠原円海

二代 篠原九郎兵衛 七代 篠原湖頭

三代 篠原九兵衛 八代 篠原大乘

四代 篠原教善 九代 篠原願乗

五代 篠原浄現 十代 篠原一乗

一一代 篠原現乗 一三代 福永一雄

一二代 篠原教信 一四代 篠原光昭

一、その他 高鍋藩主秋月氏に従い筑前（甘木市秋月）

より来る従臣篠原新四郎の子、新六の創建と伝え

る。

一、余説 筑前秋月本城舌処山は大友宗麟のため陥り種

方は古処山を落ち山伝いに北に逃れる途中で空腹

のため食を求めに従臣篠原新四郎が里に下った留

守に、後ろをつけて来た小野九郎衛門に襲いかか

られ首を打たれた。新四郎はこれを嘆き出家して

覚照寺を創建したという説もある。一



海 桃 庵 (黒谷)

(三) 真 言 宗

(7) 不動院円智寺 真言宗 高野山末

一、大字北高鍋一二六九

一、本尊 聖観世音菩薩 住職 大泉傳全

一、創建その他 大正一一年建立 開山 大泉栄覚

昭和二七年現在の寺院建立、以前は元祇園に高野
山高鍋布教所として開山。



覚 照 寺 (平原)

(8) 海桃庵 真言宗 高月寺末

一、大字上江字黒谷

一、本尊 観世音菩薩 (海桃作の銘あり)

一、創建その他 通称黒谷観音という。創建年月不明で

あるが、海桃和尚開基と伝える。海桃和尚の名は

天保四年高鍋鎮座神名帳の元禄九年(一六九六)

の江並八右衛門尉宗善の荒神縁起に見え、雲雀山

観音堂の仏像の銘に□慧境広、弘誓海深、悲智無

碍、月照波心、正徳六丙申閏二月妙心派下沙門海

桃智東拝鑄并賛十八日点眼とあるからそのころの

僧である。元、高月寺舜海の弟子であるが、明星

寺のところに記した様に妙心寺派(臨濟宗)に帰

したと見える。その墓は黒谷坂の中腹南側にある。

現在は黒谷観音と言い昭和二七年黒谷坂改修の

際有志により造営され、加藤規矩治氏寄贈の海桃

の銘のある観音像が祭られている。

(四) 日蓮宗

(9) 詔和山妙本寺 日蓮宗

一、大字北高鍋字菖蒲池四五九二の一

一、本尊 釈迦牟尼仏 住職 工藤海全

一、創建 昭和一二年教会 昭和二三年寺院創立

開山 牧野孝進

一、境内面積その他

一三八五平方メートル。昭和五二年庫裏新築、

昭和五四年本堂改修、位牌堂新築



妙本寺(菖蒲池)

(五) 廃寺

(臨濟宗)

(1) 明星寺 臨濟宗 妙心寺派 海桃和尚

一、由緒 海桃和尚は海桃庵(黒谷)の庵主で、高月寺の舜海の法弟で本来真言宗である。それが臨濟宗妙心寺派の明星寺を建てたことについては、貞享寺社帳に半紙の綴込があり、それに大要次の如く記されている。

元禄五年に海桃が上京し、妙心寺派の蟠桃院陰溪和尚の取持で庵地を設け明星寺と号することとなり妙心寺の末寺帳に書き付けて置いた。此の事を高鍋藩の家老、奉行も知らず打過ぎていた。元禄一五年鉄砲改めの時、妙心寺の直属の末寺が日向に六ヶ寺あり回状が下された。明星寺も六ヶ寺の内であり、海桃より江戸の寺社奉行に届書を出すようにと行って来た。海桃がそれを出すと幕府では当然新設の寺として取り扱ふことになる。すると、その取扱をしていない藩としては、とがめられる立場となり殿様に迷惑がかかることとなる。だから明星寺を取りつぶし、妙心寺にある末寺帳も消してしまうよう堅く海桃に申し渡したというのである。

従つてこの明星寺というのは上江村にあったと

なつてゐるが、事實は帳簿上の寺で破却したと見るべきである。海桃については海桃庵のところの記事す。

(2) 瑞松山竜雲寺 禅宗(臨濟宗) 京都正法山妙心寺派

大字上江字松本

一、本尊 釈迦文仏(寛文二年一二月秋月種信公造立)
一、創建 慶長一九年秋月種長建立(一六一四)

開山 高源照屋大和尚

一、廃寺 明治四年

元高鍋藩菩提寺にて、種長公、種信公、種美公、種茂公、御家族の靈位、奥に墓地がある。

(3) 慈雲山大竜寺 禅宗(臨濟宗) 京都正法山妙心寺派

大字上江字高月

一、本尊 釈迦文仏(元禄四年秋月種政造立)
一、創建 慶長中秋月種長建立、万治二年種春再建

開山 高源玉岑大和尚

一、廃寺 明治四年

元秋月藩菩提寺にて、種春公、種政公、種弘公、種徳公、種任公、種殷公、種樹公、種繁公、種英公の墓がある。

(4) 瑞光山宝福寺 禅宗（臨濟宗） 竜雲寺末

大字上江字山下一五二六番地

- 一、本尊 觀世音菩薩達磨大師
- 一、創建 不明

開山 高源照屋大和尚（一六世続く）

- 一、廃寺 明治四年 仏像は坂本 清氏が祀っている。

(5) 仙蔵寺 禅宗

大字上江字西平原谷坂仙蔵寺（畑中不明）

- 一、廃寺 年月不明
- 一、本尊 創建不明

(6) 大鷄寺 禅宗 龍雲寺末

- 一、本尊その他

貞享寺社帖によると本尊弥勒とあるも天保社寺帖には廃寺となっている。

大字持田字正祐寺地区の坂の途中に昔から弥勒像を祀った通称『弥勒サア』があり周囲の藪中に墓石らしいものも幾つかあってここが大鷄寺跡ではないかと思料されるが確たる資料はない。現在正祐寺という地名のみが残っている。多分貞享以前に正祐寺は廃寺となり地名として残ったもので

はないかと推定される。

(曹洞宗)

(7) 養国山皇徳太平寺 曹洞宗 明治三年廃寺

大字南高鍋字太平寺

- 一、本尊 阿弥陀仏
- 一、創建 養老三年（七一七）建立といわれるが宗旨不明

一、由緒 貞享四年寺社帳によると、開山宗旨は不明、延暦年間（七八二〜八〇五）以後天台宗となり、寛元二年（一二四四）ごろ曹洞宗となった。中興開山は無外円照大和尚。歴代住職は天保寺社帳と照合すると二八代まで知ることができる。九代孝浦融順和尚の時、伊東土持兩軍の合戦の由が記されている。同寺境内の所謂土持墓地に一四世住職の徳巖交澤、一六世仏円宝光の墓が見られる。過去帳に土持家代々として

無復山蔵公庵主、親綱 參河守田部四代 貞綱兼綱 寺領寄附

嘉吉二壬戌年 高綱 是ハ兼綱之養 惟綱 是ハ高綱 三月十一日卒 子元ハ甥也 ノ弟也 以上

六代 此代土持家
没落

過去帳に伊東家代々として

工藤大夫 本腹河津次郎祐親 祐継 伊東伊豆 守武者所 祐経
同 河津三郎祐通

工藤左衛門尉 祐時 伊東大和守 祐延 伊東信濃守

祐宗 同大和守 貞祐 同安芸 祐持 伊東六郎左衛門尉
守 此代二日向二下ル

祐重 同大和守 祐安 同六郎左衛門尉 祐立 同大和守
童名虎夜叉丸 衛門尉 和守

祐堯 同大和守於清武卒 祐国 同六郎左衛門尉 尹祐
於飫肥卒

同大和守於庄内野々美谷大永 祐充 同左衛門
年間戦死

祐吉 同六郎左衛門 義祐 同大膳太夫 義益 左京大夫 以

上十八代

右の如く書かれている。

土持氏の墓は兼綱と高綱の法号の墓二基外に土持氏の墓と見られる二基がある。伊東氏の墓らしきものは見当たらない。

余説 島津氏の将宮崎城主であった伊勢守上井覚兼日記 天正十一年(一五八三)五月九日に

財部地頭鎌田筑州(政心)礼義として御座候、京樽一荷、折肴預候也、泰平寺(太平寺同郡財部)其外衆中十人計同心也

また天正十三年九月二二日に

此朝、矢部へ(註阿蘇惟心)使僧遣候、日州財部太平寺也。

ともあり、秋月氏就封以前に、太平寺の住職が島津氏の間にあつてその武將達と親密の間柄にあつたことが伺える。

(8) 潮音山龍江寺 曹洞宗 太平寺末

大字蚊口浦(番地等不詳)

一、本尊 地藏菩薩

一、創建 不明、開山 春山了繁和尚

一、歴代住職 貞享寺社帳と天保寺社帳と多少異なる。二

世以下次の通り。江南、玄貞、桃屋、松岩、宗宿

梅庵、然庵、桂岩、孤山、智芳、文翁祖都、祖細、

勇峯大健、大説魯道、王心愚中、大秀祖関、玄栄、

石養長老(天保寺社帳)

余説 貞享寺社帳、龍江寺、天保寺社帳、龍興寺

所在地は昭和五年史蹟調査報告に江上庵の東方六丁にあり明治四年廢寺の由が見える。

(9) 医王山上庵 曹洞宗 蚊口浦

一、本尊 薬師如来 開山不明

天保寺社帳に開山春翁和尚二世以下、河辺陽公、亭岳守公、瑚桂受珊、節幸文忠、平伝林、康岳玄泰、虎雲龍公、高玉玄興、昌山玄栄、通峯玄達、樹真益禪、岱岳祖州、祖光長老、玄栄、天保五年檀家八十軒と見える。又、「琴弾の松」の渋井孝徳の碑文に筆硯を江上庵に置く由を記し、同地の口碑に江上庵は公民館の場所であると伝える。

(10) 然叟庵 曹洞宗之由 大字上江（詳細不明）

貞享寺社帳に綴込の半紙に明星寺と共に次の通り記してある。

元は曹洞宗之由、元禄十六未年大龍寺涼陰和尚庵地建立、右両条（註 明星寺と然叟庵）ハ高鍋寺社帳へ元ヨリ無之候覚之為記之。

大龍寺は臨濟宗であるから「曹洞宗之由」には疑問があるが元のまま記しておく。



太平寺跡（土持墓地）（太平寺）

(11) 龍叟庵 曹洞宗 太平寺末 上江村 無住

一、本尊 薬師如来 開山年月不明三十余年無住
右は貞享寺社帳に記載せられているところであるが、天保五年の寺社帳には見当たらない。

(12) 宝真山昌福寺 禅宗（曹洞宗）

大字上江字羽根田森二四七一番地

一、本尊 薬師、脇士十二神将

一、創建 年代不明

開山 明香曹照大和尚（一五世続く）

一、廃寺 明治三三年消滅

(13) 延命寺 禅宗（曹洞宗）大平寺末

大字上江字馬場原村

一、本尊 観世音菩薩

一、創建 不明 開山 利山 無住とある。

一、廃寺 不明（天保寺社帖に廃寺）

（浄土宗）

(14) 元祇園庵 浄土宗 元円福寺末庵

大字北高鍋字道具小路 庵地未詳

一、本尊 阿弥陀仏

貞享寺社帳には見当らない。天保五年寺社帳にはこの外に、観音三十三体 十王 建立年月不明と記されている。

(15) 秋月山安養寺 浄土宗 知恩院末

大字上江字高月

一、本尊 阿弥陀如来

一、創建 天正年中種実、種長建立

一、歴代住職 乗誉 行誉 單誉 伝誉 剛誉 栄誉

現誉 機誉 寛誉 邦誉 高誉 在誉

等誉

一、その他 天正一五年築前より福島に移転慶長一〇年

三月高鍋に移転、天保五年現在壇家数一七一軒

明治四年正月廃寺

(16) 井上山西迎院 浄土宗 安養寺末

大字上江一八三一

一、本尊 阿弥陀仏

一、創建 寛永年間宿算法印建立

一、歴代住職 開山有算法印 行誉 光誉 命誉 幽誉

融誉 對誉 澄誉 眞誉 入誉 発誉

勵誉 明誉 安誉 智山 眞随

一、その他 寛永年間高月寺三世有算法印開山その後廃寺となり、貞享年間行誉上人再興し浄土宗に改宗、明治四年春廃寺となる。

(17) 薬王山医福寺 浄土宗 円福寺末

大字北高鍋字中鶴

一、本尊 薬師如来

一、創建 永祿九年（一五六六） 開山 覚阿

一、歴代住職 開山覚阿 清賢 玄訥 了運 宗清

正林 諦誉 故順 善廓

一、その他 明治初年廢寺

（浄土真宗）

(18) 真宗道場 覚照寺末 順礼堂（道具小路内）

右円知と申者、正覚寺五世願了門徒了甫他出の

後本尊出づと記し候へども当時断絶（天保寺社

帳）

（真言宗）

(19) 医王山祇園寺樹照院 真言宗 高月寺末

大字高鍋町下横町（八坂町）八坂神社境内

一、本尊 薬師如来

一、創建その他 祇園宮、種長公御代古町へ御勧請、其

後当町へ御引移。天保五年改之書上之趣、町金比

羅、秋葉、加茂、弁財天、今島稻荷、祇園寺勤来

之由（天保寺社帳）

開山明星院慶長年中建立、蓮花院、慈眼院、宗

印、文生、遍蔵院、宝蔵院、当住迄八代、住持善

集院（明治二年復飾祇園社神主となり阿部年男と

改む）寺領一五石（以上貞享寺社帳）

(20) 雲松山観音寺 真言宗 高月寺末

大字蚊口浦（江上庵と同所か）

一、本尊 観音菩薩

一、創建その他 寛永九年（一六三二）中興開山は空玄

法師、此間中絶、宗円俊弁当住まで四代とあり、

住持に宝城院、外に源玄、源玄が円光院へ行つた

後、未（年号不明）八月一〇日音性に命ぜられ、

次いで泰山（後に乱心）に正徳四年七月一八日に

命ぜられた。明治三年廢寺となり、住職は社人と

なり柄本重光と改めたと記してある。これは後人

の記入であろう（貞享寺社帳、なお天保寺社帳に、

天保五年改滅罪檀家三二軒とある。昭和五年史蹟

調査報告書に江上庵と同所にあつたとし、宗派廢

寺等は禅宗龍興寺と同じとしているが、貞享寺社

帳と合わない。恐らく誤であろう。

(21) 大聖山（天保寺社帖）高月寺 真言宗 高月

貞享寺社帳には円通山となっている。天正一五

年種長建立、持仏堂本尊薬師如来。護摩堂本尊、

不動明王、鎮守八幡、天神、若宮、稻荷大明神、

寺領三七石五斗、明治四年廢寺

(22) 瑠璃山東光寺 真言宗 高月寺末

大字持田字東光寺に現在寺跡あり

一、開山その他

貞享寺社帖によると開山は文禄年間法印祐義、本尊薬師とあり、明治初年廢寺。現在敷地約八アールに家床公民館が建ち入口に東光寺跡保存碑と高鍋町文化財指定の十三仏板碑(いんぎ)(室町時代末期の作、石質砂岩高さ約一・六メートル、幅三六センチ角材)が建っている。十三仏板碑は正面上段に径約十二センチの円中に一仏宛十三仏の浮彫があり下段に南無大師遍照金剛の文字と大願主権大僧都、永禄五天の文字あり(一五六三)

一石経塚 同寺跡より約三十メートルの上段に一堂あり、周囲に小石が散在し石に書かれた文字がかすかに見える。一石経塚の跡で堂内に矛を祭る。

(23) 東雲山大仙寺 真言宗 高月寺末

大字持田字宮ヶ谷(通称大寺)

一、本尊 観音

一、その他 貞享寺社帖によると永正元年開山妙光院宥

秀とあり、明治三年廢寺。現在通称大寺に約八ア

ールの寺跡と隣接した杉林内に歴代住職と復飾社人浜砂操大人の墓その他の塔十数基あり、古老の言によると任時の本尊と思われる観音像は明治三年棄却の際同所の矢野某ひそかに持出し難をのがれたと伝えられ同寺より約三〇〇メートルの所に現在祭られている。

(24) 善福寺 真言宗 高月寺末 鳴野

一、本尊 地藏菩薩、永正二年建立、中興開山覚正院貞享寺社帳には右の通りの記録あるも天保寺社帳では廢寺となっている。寺跡不明。

(25) 長園寺 真言宗 高月寺末 持田

一、本尊 地藏菩薩、天正元年建立、開山法印伝秀、貞享寺社帳には右の通りの記録あるも天保寺社帳では廢寺となっている。寺跡不明。

(26) 長寿院 真言宗 高月寺末 坂本

一、本尊 薬師如来 寛永元年、中興開山法印伝宗、貞享寺社帳には右の通り記録あるも天保寺社帳では

廃寺となっている。寺跡不明。

(27) 日陽山長宝寺 真言宗 高月寺末寺

大字上江字山王 三二八二

一、本尊 薬師如来

一、創建 不明 慶長三年中興開山法印舜覚

一、廃寺 明治四年

(28) 梅香山天神寺善門院 真言宗 高月寺末寺

大字上江字黒谷

一、本尊 十一面観音

一、創建 不明 種長公御勧請

一、廃寺 明治四年

(29) 瑞峯山愛宕寺応輪院 真言宗 高月寺末

大字上江

(愛宕下)

一、本尊 地藏菩薩

一、創建 不明

一、廃寺 明治四年

(30) 瑠璃山慈恩院 真言宗 高月寺末寺

大字上江字木野瀬

一、本尊 薬師如来

一、創建 不明 文亀二年開山宝祐(二二代続く)

一、廃寺 明治四年

(修験・山伏宗)

(31) 白山代 修験宗 地福寺触下 山号寺号無し

大字北高鍋字小丸(詳細不明)

一、本地堂 御蔵屋、本尊 十一面観音、薬師、地藏

屋敷拝領一段一畝一八歩(天保寺社帳)

(32) 愛染院(古町村)(道具小路か)

(33) 福寿院(菖蒲池)

右の二寺天保寺社帳にあるも全く不明。

(34) 朝倉山龍岸寺 山伏宗 地福寺末

大字南高鍋字脇

一、本尊 地藏、不動

一、創建 年月不明

一、歴代住職 不明

一、その他 寺領二石二年五升境内一反九畝拝領外に仏
供料米三斗二升薬師堂(三間四方)如来、日光、

月光、十二神、明治初年の廃寺。

一、廃寺 明治四年

(35) 宮田寺 山伏宗 地福寺末

大字南高鍋字宮田

(38) 鈴峯山飯長寺 山伏宗（修験）地福寺末

大字上江字平原飯長寺一六六三番地（金刀羅山）

一、本尊 不動明王

一、本尊 観音、不動尊、観世音行者、理源大師

一、創建 年月不明

一、創建 不明 開山 源艱法印

一、歴代住職 不明

一、廃寺 明治四年（住職飯田清年代）

一、その他 宮田大明神社領七石五斗境内拝領一反

明治初年廃寺。

（宗旨不明）

(36) 松尾山地福寺円実院 修験（山伏宗）

京都三宝院御門跡御配下

大字上江字旧城内

(39) 光音寺 宗旨不明

大字南高鍋字光音寺

貞享、天保の寺社帳にも見えず、次の文献に見えるから中世の寺院であったのであろう。

一、本尊 木仏地藏、木仏行者、木仏理源大師

天正十一年（一五八三）閏正月十八日、従財部

一、創建 不明 開山 源忠法印（六代続く）

（高鍋）光音寺（住職）被来候、茶、木綿二預候、

一、廃寺 明治三年（元寺領一五〇石）

（上井覚兼日記上巻一九六頁。上井覚兼は島津義

天保四年種任公再建（現石井長保所有地）

久の臣、宮崎城主）

(37) 川田寺 修験派 地福寺触下

大字上江字川田楠 二一九四番地（川田神社境内）

一、本尊 薬師如来、庚申、持仏堂

海道より光音寺へ参る脇道以前の通り通らざる様に制札立候様申付（拾遺本藩実録卷二、元禄四年

一、創建 年号不明 開山大輔先達 教日先達

四月九日）これは寺名でなく地名としての光音寺である。同書七七頁にも光音寺は地名として用い

られているから、元禄ごろは既に廢寺であったと思われる。大泉篤範の宮田・脇・太平寺史跡案内に次の如く記してある。

昭和八年当時の県社寺課の瀬ノ口伝九郎氏の「廢寺調査」の中には左記されている。

光音寺、禪宗、太平寺支院、字光音寺に在り。廢寺年月未詳、今徒らに寺名を残すのみ。と。

(40) 田尾寺 宗派不明 所屬不明

大字上江字羽根田仏藏寺二四二〇番地(赤沢実宅)

一、本尊 不明

一、創建 不明

一、廢寺 明治四年

(付) 古墳供養高鍋大師堂

大字持田字東光寺台地上

一、本尊 弘法大師

一、創建 昭和八年三月三十一日安置完了、九年三月二一

日入仏式 開山 岩岡保吉翁(弘覚)五二年没

一、開山の由来 昭和初期にこの地一帯の持田古墳盜掘事件があり、この供養のため弘法大師、八十八カ所をお祀りしたことに始まる。御堂は一米四方の建物、瓦葺きで内部組立ては自然木丸木作りで本尊弘法大師像も岩岡翁自作で堂裏地下道五〇メートルは極楽浄土を意味して開削されたもので莫大な労力と経費を要している。

一、その他 表参道山腹の八十八カ所石仏は石工の作であるが、その他約七〇〇体供養塔は全部保吉翁の自作である。その主なものは不動明王、稻荷大神十一面觀世音、一二薬師如来、天照大神、素盞鳴尊、風の神、雷様、火よけ神等。

三、教会

(1) 天理教高鍋分教会

高鍋町大字北高鍋字今嶋三三九〇

一、祭神 親神天理王命

一、例祭 春季大祭（一月十日）、春季靈祭（三月二〇

日）、秋季大祭（一〇月十日）、秋季靈祭（九月二

〇日）、月次祭（毎月一〇日、一月、一〇月除く）

一、由緒 明治二七年一月、初代竹中とめ和歌山県から

宮崎県に布教に来る。明治四三年一二月一九日高

鍋町大字高鍋町五七〇番地へ高鍋宣教所設立（本

部承認）、明治四四年一〇月三〇日地方庁の認可

（女の教会長は県内で初めてで、全国でも稀であ

り、認可まで相当の日を要した）、四五年四月一

〇日開庭式執行、大正六年七月二九日二代竹中徳

次郎就任、同九年四月二九日高鍋支教会と昇格改

称、昭和一四年一月二七日現在地へ移転（本部承

認）、二五年一月二五日三代竹中敏雄（現）就任。

（昭和一四年四月一日教会制度の改正で分教会と

改称）

一、土地面積 四九七八・五平方米

一、建物 神殿（教職舎をふくみ木造平家）六五二・

六平方米

余説 教会の最初の建物は旧高鍋藩の道場、骨組は現

在地で教職舎として使用している。

教会長 竹中敏雄

(2) 天理教本河分教会

高鍋町大字北高鍋一二七七

一、祭神 天理王命

一、例祭 月次祭（毎月四日、但し三月、一〇月を除

く）

春季大祭（三月四日）、秋季大祭（一〇月四

日）

一、由緒 創建昭和三年一〇月三日

初代会長河野誠

一、土地面積 一三五五・三七平方米

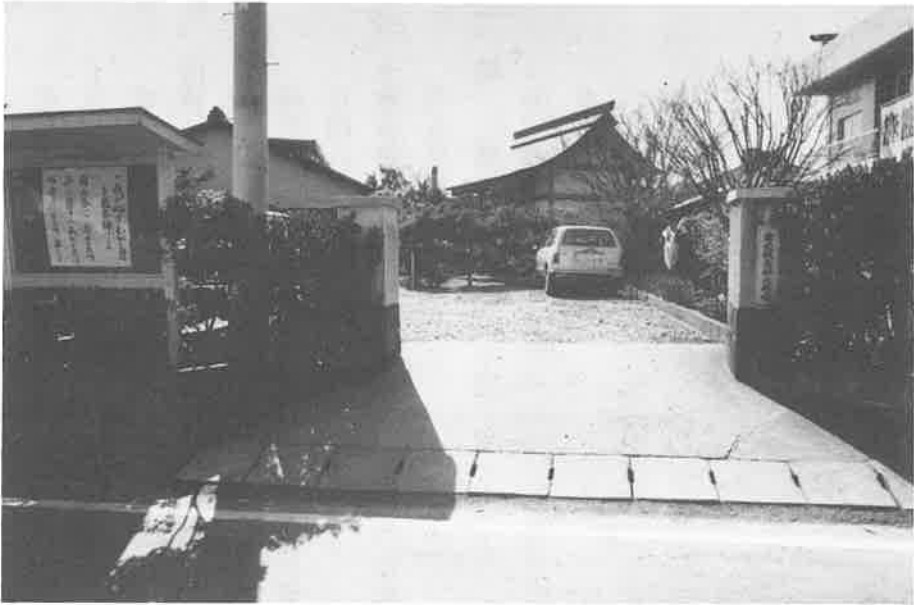
一、建物 神殿居宅三五七・四六平方米、会堂一九

二・三八平方米、納骨堂一四・五七平方米

教会長 山崎不貳夫



天 理 教 (小丸上)



金 光 教 (石原)

(3) 金光教高鍋教会

高鍋町大字高鍋町八一

- 一、祭神 天地金乃神、生神金光大神（教祖）を祀り、本部出社である。

一、由緒 本部、岡山県浅口郡金光町大谷

昭和三二年、広島県人宮本藤一大人が開教。

一、土地面積 三六〇坪

- 一、建物 神殿広前四〇畳、教職舎屋、奥城五坪。

一、例祭

大祭、春（五月八日）天地金乃神大祭、秋（一一

月八日）教祖大祭

中祭、報徳祭（二月一七日）、祈願祭（七月一七

日）

小祭、月次祭（毎月七、一七、二八日）、祈願祭

（月始め）、夏越大祓式、上半期謝恩祭（六月

三〇日）、年末大祓式、下半期謝恩祭（一二月

三〇日）、元日祭（一月一日）

教会長 宮本清子

一、例祭 虚空蔵菩薩ご命日（五日）、妙佼先生ご命日

（十日）、七面大明神ご命日（一四日）、釈迦牟

尼仏ご命日（一五日）、八幡大菩薩ご命日（二八

日）、涅槃会（二月一五日）、降誕会（四月八日）、

成道会（一一月八日）その他。

一、由緒 昭和一三年三月五日に開祖庭野日敬、脇祖長

沼妙伎の両先生によって創立され、高鍋教会は宮

崎教会、延岡教会の合流によって昭和四九年一一

月四日創設された。

一、土地面積 本館三〇二・五三平方米、別館二二七・

五五平方米

一、建物 本館建物（木造平家）五〇七・九五平方

米、別館（木造平家）一一三・九九平方米

教会長 前川浩志

(4) 立正佼成会 高鍋教会

高鍋町大字北高鍋七反田一九六一八

- 一、本尊 久遠実成 大恩教主 釈迦牟尼佛（世尊）



カトリック教会（小丸下）

(5) 高鍋カトリック教会（イエズスの聖心教会）

高鍋町大字北高鍋七五五の一

一、信仰の対象 イエズス・キリスト

一、例祭 復活祭（春分後の満月の次の日曜日というところになっているので、三月末から四月中旬にあたり例年定まっていない）、聖霊降臨日（復活祭後

五十日目の日曜日）、クリスマス（二月二十五日）

一、由緒 大正一五年に横町に伝道所を開設、昭和二年に現在スパーまるき屋の地に移転、昭和四年に現在の秋月医院の地で、旧医院の建物を借り受け、ドンボスコ小神学校を設立し、教会同学校内に移る。昭和九年に現在地に移転した。昭和二六年、聖堂、司祭館を建築したが、白蟻により腐蝕使用不能となり、昭和四九年（一九七五年）に現在の二階建聖堂を建築した。二階は教会として礼拝行事に使用し、階下は青年会の喫茶店として使用、附属幼稚園は昭和二九年設立、その後数回改築して現在に到る。

一、土地面積 二〇五六平方米

一、建物 教会二〇七・三二平方米、司祭館一〇九・

六平方米、カトリック聖母幼稚園七二四・二二平方米

日本基督教高鍋教会（道具小路西）



(6) 日本基督教高鍋教会

高鍋町大字北高鍋一三三二

一、信仰の対象 イエス・キリスト

一、例祭 元旦礼拝、復活祭（三、四月）、聖霊降臨日

（五、六月）教会創立記念日、昇天者記念礼拝（一

月第一主日）、クリスマス（一二月二五日）

一、由緒 一八八八年（明治二年）七月九日、旧日本組

合基督教会高鍋教会として成立、今日に到る。場

所は小丸カトリック聖母幼稚園のある所で、後現

在の田の上に移転した。そして一九四一年（昭和

一六年）以後は日本基督教団高鍋教会となる。

一、土地面積 九九九・七三平方米

一、建物 会堂六七・四八平方米、牧師館四九・五

四平方米

余説 伝道開始の夏、当教会の初期の時代に、ずっと

伝道の応援をしてくれた米人宣教師C・A・

クラークは、宮崎県に最初に自動車、自転車を持

つてきた人物である。またその人物の遺徳と面影

を偲ぶため、数人の児童に話しかけているクラ

ークの全身銅像（三坂耿一郎作）が、現在、宮崎市

別府町五の児童公園内に建てられている。

牧師（正教師） 安藤恵三



日本バプテスト児湯キリスト高鍋会堂（下屋敷）

(7) 日本バプテスト児湯キリスト教会、高鍋会堂

高鍋町大字北高鍋下屋敷北三二四二の二

一、信仰の対象 イエス・キリスト

一、例祭 復活節（春）、聖霊降臨日（初夏）、クリスマス（十二月二十五日）

一、由緒 昭和二七年頃より筏家庭集会発足、昭和三八年五月、現在地に教会堂建設、昭和四五年四月二十九日に教会組織

一、土地面積 九九一・七三平方米

一、建物 教会堂五七・九六平方米

当教会はプロテスタントの中のバプテスト派であり、当広域農村伝導圏を持つ教会である。西都市穂北、三財、新富町追分の三教会堂四会堂を有する。

牧師 宗教法人代表役員、山下俊郎



キリスト教会（道具小路）

(8) 高鍋キリスト教会

高鍋町大字北高鍋一二六四

一、信仰の対象 イエス・キリストの十字架の福音を信ずる信仰

一、例祭 復活祭、聖霊降臨日、クリスマス（一二月二五日）

一、由緒 本教会は、設立者、柿原正次牧師が昭和二四年六月六日設立せられたものである。柿原正次氏は、壮年郷里を出られて渡米キリスト教を研究、米国各州を伝道遊歴せられ、バプテスト派の信仰行持が最もよく主キリストの聖教を如実に伝えつつあることを覚悟、以来その派の教会に所属伝道せられた。

高鍋教会の設立にあたって、米国フロリダ州タムバ市、テキサス州アントニオ市、同州ヒューストン市の各バプテスト教会員の多大なる物心両面からの援助をうけた。

一、土地面積 六七一・四〇平方米

一、建物 教会堂九五・八六平方米、居宅六八・〇三平方米

牧師 桑原福三



立正佼成会（旭通）

四、高鍋の寺社関係資料について

石川正雄

「高鍋の寺社」を編さんするに当って参照した資料について簡単に解説して置くこととする。

一、貞享四年高鍋藩寺社帳

故瀬之口伝九郎の書写した寺社帳を宮崎県総合博物館が訂正補充を加えガリ版刷で刊行したものである。卷末に次の通り記してある。

此寺社帳ハ貞享三年高鍋藩ノ調査セルモノニシテ永友宗年蔵スル所ノモノニ係リ今般令息永友宗清氏ヨリ借用シテ写セシモノナリ 昭和一四年二月六日 於宮崎 瀬之口伝九郎

二、天保五年高鍋藩寺社帳

此書は高鍋郷友会報告に覆刻されたもので、外に故大泉篤範氏が之をガリ版刷にしたものもある。巻頭に次の通り記してある。

（此書は秋月左都夫君の家蔵なるが、高鍋の歴史を考える上には屈竟の資料であるので、請うて之を採録する。編輯子識）

御領分中寺社帳、旧来三部あり。詳略各異なるゆゑに、天保四年より寺院社司に令じて書き上げしめ、彼是校合して此帳を成す。後年異事あらば加入すべしと云ふ。

天保五年中秋日

寺社奉行

中村権左衛門道孝

同

三好岩記重賢

同

黒水司馬太長敬

同

小田藤兵衛知彰

同

手塚力之進吉貞

同

田村雄右衛門克成

同

柴垣嘉治馬定安

また巻尾に

右嘉永七年二月写之

長周

とある。長周は左都夫の祖父で水筑姓である。

三、天保四年高鍋鎮坐神名帳（北高鍋村）

此書は永友宗義氏所蔵の稿本を黒木正義氏がコピーしたもので巻末に次の通り記してある。

右一卷此度御奉行所寺社帳書替在之御神体并御祭

札之次第其外社殿間数ニ至迄巨細書立差上候様被仰

付候ニ付右之通り書立御奉行所江差出候後代斯様之

義も在之候節之助ニも相成り可申ため書記置申者也

天保四癸巳年八月日 永友因幡宗範

四、児湯郡神社明細帳 第十一号永年 宮崎県

此書は県の寺社課の記録で、昭和三五年の宗教法人届出の神社明細である。場所、祭神、由緒、社殿間数

境内坪数、境内神社、氏子戸数、県庁までの距離を記す。

五、宮崎県史蹟調査報告第五輯 児湯郡之部

昭和五年三月刊行である。高鍋は神社二四社、寺院五

寺、廃寺二五寺を記している。

六、大泉篤範遺稿集 宗教編

以上であるが外に担当宮司の所有する記録、現地の調査に従ったものもある。

編集後記

昭和四十九年三月「高鍋町文化財要覧」シリーズ第一集を発行して以来、回を重ねてこのたび第六集「高鍋の社寺と教会」を発行することにしました。

古来、里、村の集落を形成した人々の日常生活の中には、経験によつては、証明できないものの秩序の象徴として、神社や佛閣の発生をみたものでありましょう。

今回紹介した高鍋の社寺と教会は予想以上の多きを数えますが、このことは高鍋が地利、地形的にも生活がしやすく古くから集落を形成して繁栄をしていた証であり、路傍の神祠にも祖先の心を見る思いがします。

第一集からすべて文化財保存調査委員の方々に執筆を煩していますが、御苦勞に対しまして心から厚く御礼申あげまして後記といたします。

高鍋町教育長 日高 俊

執筆者及び参画者所属名

高鍋町文化財保存調査委員長 石川正雄

高鍋町文化財保存調査委員 小椋美義

〃 〃 武藤重勝

〃 〃 前田新一

高鍋町文化財保存調査委員

黒水 渉

高鍋町社会教育課長

松井克興

高鍋町社会教育課長補佐兼

本部 寛

文化財係長

(表紙写真 舞鶴神社)

高鍋町文化財（第六集）

高鍋の社寺と教会

発行 高鍋町教育委員会

編集 社会教育課

TEL (09832) 3-0049

印刷 熊谷印刷所(株)

高鍋町六日町 ☎ 3-0007

